

第5回の議論 意見のポイント

- 中間のまとめについて、最終報告としてまとめる時には、各地域の事例などを例示した方が、イメージが沸きやすい。
- NPOと町会は、地域における課題に取り組む時には連携しやすい。災害問題など具体的な事例を挙げながら、連携のあり方を議論した方が分かりやすい。
- NPOの取組は、良い事例があっても発信するだけの体力がないため、広がらない。どれだけ知らせられるか、という気運づくりが行政の大きな役割。
- 自分の好きなこと、やりたいことができるため、団塊世代は、町会よりはNPOのほうが入りやすい。
- 高齢化が深刻になると、町会とかNPOとか言っていられない状況になる。町会が弱い地域では、NPOが支え手となってほしい。
- いろいろな機能を持っている団体をどうつなげるかが課題。コーディネートできる人材がいないと機能しない。
- 団塊世代の男性は、目的や役割が明確でないと地域に入ってこない。
- 団塊世代の男性は、自分の能力が地域の中でどう役に立つかが分かっていない。その能力が役に立つと気づかせ、自信を持ってもらう必要がある。

- 団塊世代にどういう形で担い手をさせるか。何を支援するのかを考えた方がいい。
- 団塊世代が大量に地域に出る中で、どの組織に取り込むか。どう活用するか。
- 社会参加に興味があるのに、していない人がいる。自分が住んでいる地域の課題を知らない人が多く、そのような情報を開示する役割を行政に期待したい。
- 団塊世代向けの相談体制が整備されていない。また、相談に乗るためには、専門的なスキルが必要。
- 団塊世代の地域デビューの相談室をやっているが、来る人は極めて少ない。イベントなど来てもらうための仕掛けをつくる必要がある。
- 地域の中にたまり場があっても、声をかけられるおせっかいな人が必要。男性は声かけがあると入りやすい。
- 住民同士の均質性が高いところは、まとまりやすい。共通の関心、課題など共通項を強調して集まろうという仕掛けが必要。